

土砂災害対策は日頃から

渋川市立渋川北中学校 三年 松岡 朋花

現在、日本では、様々な自然災害が全国各地で猛威を振るい、人々の身に危険を及ぼしています。特に、台風の強風や大雨によって木が倒れたり、川が氾濫したりして、行方不明になる人や亡くなる人がいることを、ニュースなどでよく耳にします。テレビ越しに見る映像であってもその痛々しさや怖さが伝わってきて、自然災害による被害には、人間の力ではどうにもできないような恐怖を感じます。画面越しでも怖さが伝わってくるような状況でその場にいる人たちはどんなことを考えているのか、自然災害の被害についてのニュースを見るたびに私はそれを考えていました。きっと、画面越しでは感じられない恐怖があり、私だったら、自分のことしか考えられなくなり、パニック状態に陥るだろうと考えました。そして、実際に自分の身に危険が及ぶ出来事がありました。

台風の上陸があり、大規模な被害が予想されていた日のことです。私の住む地域は、台風の予想があっても結局、台風が来ないということがよくあるため、その日も、「どうせ被害も無いだろうから、別に備えたりしなくていいや。」と何も考えずに過ごしていました。しかし、何もしないで過ごしていると、突然強風が吹きはじめ、雨も次第に強くなっていき、家の庭は池のようになっていました。私の家の近くには、小さな崖のようなものがあり、その崖も上から流れてくる水で水びたしになって今にも崖が崩れ、土が家に流れてきそうになっていました。もし、あの崖が崩れて、土が流れてきたら・・・私の脳裏に最悪の事態がよぎりました。逃げ遅れたら、死んでしまう。この家も流されてしまうのだろうか。それまでは感じたこととの無かった恐怖が私を襲い、命の大切さを実感しました。私は、とにかく自分の命を守ることしか考えず、おらず、恐怖におびえているだけでした。しかし、そんな状態の中、近所の方が、私の家を訪ねてきました。そして、その人は、

「土が流れてきそうで危険なので、水が流れる道をつくりませんか。」

と言いました。この時、私はとても驚いた覚えがあります。強風と大雨で、自分の命に危険が及ぶかもしれないのに、その人は、自分の安全だけでなく、近所の人たちみんなの安全を優先しようとして、自分から危険な作業をしようとしていたのです。私だったら、自分の身のことしか考えられず、絶対にそんなことはできないと思いました。その後、その人と私の父は、いつ崖が崩れるか分からない中で作業をし、上から流れてくる水が土に流れ出ないように水が流れる道を掘ってつくりました。それによって、私を含めた近所の人々たたくさんの安全が確保されました。私はとても安心しました。近所の方との関わり、そして助け合いや協力があつたために、たたくさんの被害を防ぐことが出き、命を救われたのです。もし、近所の方との関わりが無かつたら、家が壊れていたかもしれないし、自分の命も無くなっていたかもしれない・・・しかし、日頃から、少しでも関わっていたことと、他の人の命を優先して行動する近所の方の勇気があつた為に救われたため、人との関わり大切さを実感しました。また、ハザードマップや非常用の持ち出し品を備えておくことも大切ではあるけれど、近所の人と、日頃からコミュニケーションを取ることによって防げる被害もあるのではないかと考えました。

もし、近所の人のことを何も知らなければ、危険な状態の時にも助け合いや協力が出来ずに、みんなが自分の命を優先して、結果的に大きな被害が生まれる可能性があります。しかし、日頃からコミュニケーションを取り、お年寄りや赤ちゃん、体が不自由な人など、避難したりするのが困難な人がいることを把握しておけば、一人でも多くの命を救うことができるのではないのでしょうか。

近年、日本では、犯罪などの影響もあってご近所付き合いの文化が薄れてきています。しかし、昔ほどでなくとも、顔見知り程度でも良いので少しでも関わっておくことで危険な状態の時に、一人でも多くの命を救うことができます。一人では救えない命も、みんなで協力すれば、救えるかもしれません。

土砂災害は、いつ、誰に起きてもおかしくありません。台風や豪雨が起きていなくても土砂が崩れてくる可能性は十分にあります。その危険な状況で、地域の方々と協力し、助け合えるか。それが身を守るための鍵になってきます。その為にも、日頃から地域の方との関わりを持つことが欠かせないのではないかと思います。